

第8節 市町村における特色ある取組（志布志市）

志布志市マイバッグ持参促進・レジ袋お断り率大幅アップのための取り組み（「レジ袋有料化」に向けた取り組み）

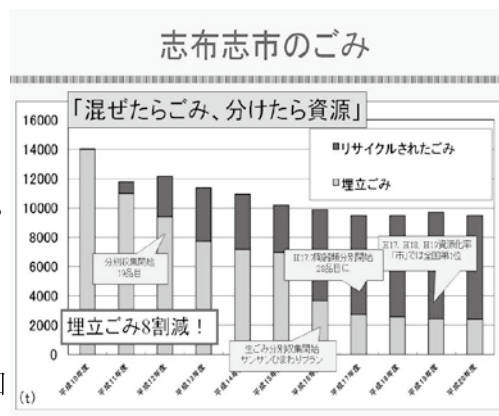
1 取組の経緯

本市はごみの焼却施設を作らず、ごみはすべて埋立処分しています。その埋立ごみを減らすため平成12年度から市衛生自治会（＝住民）と市が協働で本格的な分別収集（現在は28品目）を行い、平成17年度以降は毎年80%以上の埋立ごみを減らすことができています。

さらに、平成19年度より「買い物という行動を通して、ごみを減らすことはできないか」について、消費者、事業者、関係機関がひとつのテーブルで検討する会議を「買い物からごみ減らし円卓会議」と名付け9回開催してきました。その検討結果、「地球温暖化防止、

さらなるごみ減量化の観点からレジ袋有料化を実施することが望ましい」という意見で一致しました。

また、レジ袋有料化を実施する効果は、①ごみの減量化・地球温暖化防止②生活様式の見直し③不法投棄の抑制④野生動植物の保護⑤先進的な取り組みをすることによる市のPR効果⑥ものを大切に人を大切にする心を育成することができると考えています。



2 ごみの減量化，地球温暖化防止に貢献

今回のレジ袋有料化は特にレジ袋有料化のごみの減量化，地球温暖化防止に貢献できると考えています。現在，日本人は年間一人当たり300枚のレジ袋を使っているという計算がされています。本市の人口が約35,000人なので，1,050万枚を使用していることになり，重さに換算すると84トンのレジ袋がごみとして排出されていることになります。そのため，レジ袋を使用しないと廃棄物の減量につながります。

また，レジ袋を製造する時の二酸化炭素排出量は24g，処理するために24.8gとなり，レジ袋1枚で48.8gの二酸化炭素を排出していると計算されています。これを本市で換算すると512トンの二酸化炭素を排出していることになります。レジ袋を使用しないことで，二酸化炭素排出削減になり，身近な地球温暖化防止活動につながると考えています。

3 市民への環境学習会の実施

本市では、レジ袋有料化を実施するには市民への周知が重要であると考えました。そこで、市民への環境学習会を数多く実施しました。現在までに市内の各自治会、女性団体、公民館、スポーツ少年団など約200団体、10,000人へ環境学習会を行いました。

また、市広報誌を活用しての周知を図り、啓発用のぼり、横断幕を市内全域に設置をし、大型店舗においての買い物客へのチラシ配布、説明会を実施しました。



環境学習会の様子

4 レジ袋有料化へ

本年度は市内約200店舗の小売店に対して、説明及び協力要請を実施しました。その結果、約7割強の150店舗が協力することになり、9月25日に「志布志市マイバッグ持参促進・レジ袋お断り率大幅アップに関する協定」の調印式を行い、10月1日からレジ袋有料化を開始したところです。市民に対して周知、啓発を徹底した結果、ほとんどの市民は買い物にはマイバッグを持参あるいはレジ袋を断っていて、スムーズに「レジ袋有料化」が進んでいます。



H21.9.25（金）レジ袋調印式

5 今後の課題

今後は、「買い物からごみ減らし円卓会議」の中で、参加小売店より、有料化を実施してからの来客数の報告、マイバック持参率等を報告してもらうことになっています。その結果に基づき、取組の有効性、今後の課題等を円卓会議の中で議論していくこととしています。

さらに、市民の方への環境学習会を充実させ周知をしていくとともに、まだ参加をしていない小売店への協力要請を行います。

また、近隣市町村、鹿児島県、全国的な取り組みになるように呼びかけていきたいと考えています。

マイバッグで家に帰ろう

H21.10～
市内一斉レジ袋有料化

市民の理解と協力により、順調に行っています。

H19～「買い物からごみ減らし円卓会議」
メンバー（小売店主・消費者・各種団体・行政）

環境学習会 150団体

参加店舗 140/200



市広報誌によるPR